

実は日本は水輸入大国である

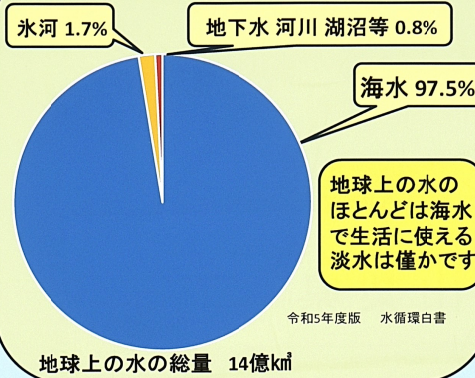
はじめに

温帯湿潤気候の日本は世界的に見ても多雨地帯に位置しています。年平均降水量は1700ミリ程度で、世界平均の880ミリに比べ2倍近くあり、一般的に水資源は十分にあると考えられています。

一方で日本は近年食料自給率が低下の一途をたどり、食料の多くを輸入に頼っています。食料生産には多くの水を必要としており、食料を輸入することにより、他国の水を**仮想水**という形で輸入している事実があります。

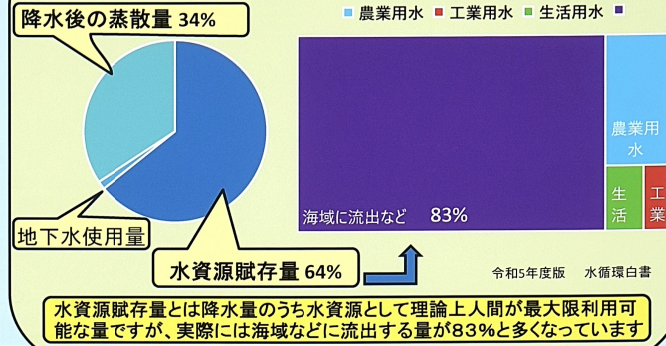
日本の水資源利用と、水輸入について調べました。

地球上の水の割合

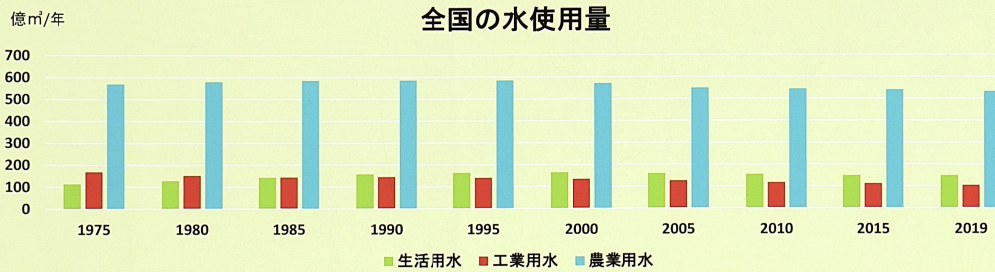


日本の水収支の割合

年平均降水総量6600億㎡

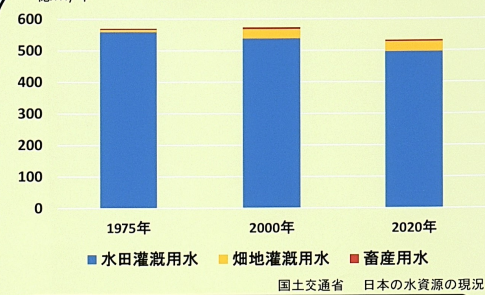


全国の水使用量



工業用水は減少していますが、生活用水は徐々に増え、農業用水はやや減少しているものの横ばいです

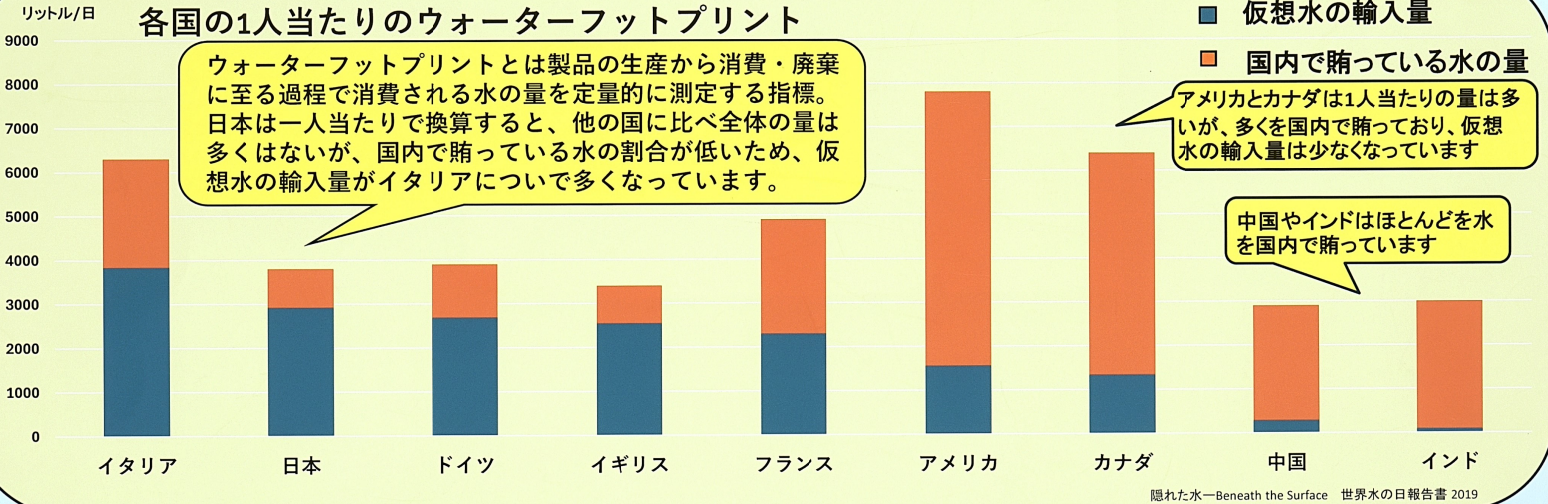
農業用水の推移



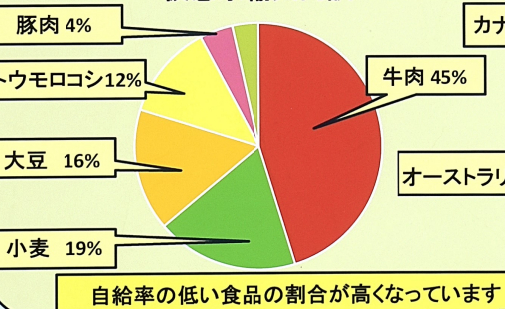
最も水使用量が多い農業用水では水田灌漑用水が最多でその傾向は変わっていません

各国の1人当たりのウォーターフットプリント

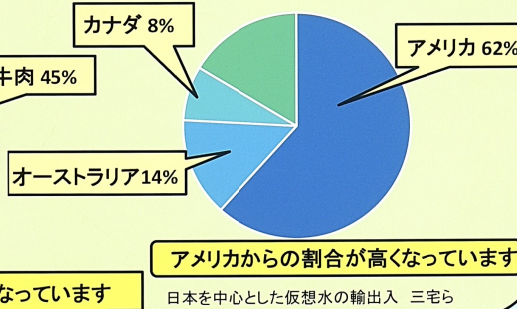
ウォーターフットプリントとは製品の生産から消費・廃棄に至る過程で消費される水の量を定量的に測定する指標。日本は一人当たりで換算すると、他の国に比べ全体の量は多くはないが、国内で賄っている水の割合が低いため、仮想水の輸入量がイタリアについて多くなっています。



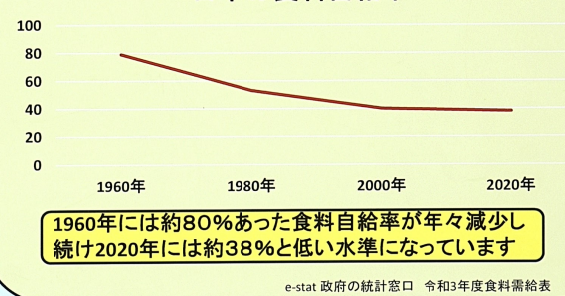
仮想水輸入内訳



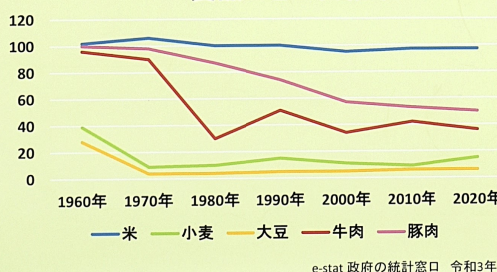
仮想水輸入元割合



日本の食料自給率



食品ごとの自給率



まとめ

地球は水の惑星といわれており、日本にも十分な水資源があると思っていました。日本の水資源は主に農業用水に使用されています。日本は食料自給率が低いため他国より多くの食料を輸入しなければなりません。仮に現状のまま食料自給率を上げるとなると、さらに多くの農業用水が必要となります。現実には仮想水という形とはいえ大量の水を輸入していたのです。仮想水の輸入が多い背景には牛肉や小麦などを使用した食事の欧米化が関係していると考えられます。今後日本も他国の水に頼るのではなく、現在日本にある水資源をより有効的に利用する方法を考えていかなければならないと感じました。